

トロータリ

奉仕

白あけの夕
の思文想
庫蔵書

黒木

勝

—ロータリーにおける—

奉仕の思想

黒

木

勝

まえがき

ロータリーとは何であるかを、性急に言葉で説明することは、なかなかむづかしい。ひっきょう、奉仕の理念を明確に認識することが必要であるが、奉仕、奉仕といつてりくつで攻めてゆくと、ロータリーの幅が狭くなる。自分も得るし、人にも与えるロータリーの功德は、ほんとうは無限に広がって深いものだと思う。私は、広い視野と寛容な広い心でロータリーにはいつてゆくか、あるいは、狭く浅くはいつてゆくかで、その功德の多少が分かれてくるような気がしてならない。

ロータリー情報委員長をここ二年続けて勤めさせていたのだが、その間に話したり書いたりした情報や雑文やメモをひとつにまとめ、自分の仕事の反省の資料とすることとした。内容は、ロータリーの諸先輩の説かれたことの受売りが大部分を占めていることはもちろんであるが、私は私なりの理解の仕方と説き方をしたつもりであるし、ロータリーがこんな仕方、次から次へと受け継がれてゆくことは、それでよいのではないかと独り合点をしているのである。

ロータリーがほんとうに分かるには、かなりの体験的な時間がかかると思うし、むしろゆっくりとそして大きく分かる方がよいのではないかという気もする。私の任期中の仕事の量が少なかつた

ことの言いわけのように聞えるかもしれないが、これが私のペースであったのだから、恐縮ながらどうかお許しをしていただきたい。また直接間接にいろいろご教示を賜わったロータリーの諸先輩の方々に厚くお礼を申しあげるとともに、小文の中にかずかずの引用をさせていただいたことについてなにとぞお許しのほどをお願い申しあげたい。

昭和四十九年六月

宮崎北ロータリークラブ

黒 木 勝

目 次

ロータリーにおける奉仕の理念と奉仕の方法	5
ロータリーの発生と奉仕の理念について	9
ロータリーの集会について	15
ロータリーとは	21
職業奉仕を理解する(その一)	25
職業奉仕を理解する(その二)	29
出席奨励と早退防止について	33
今後の奉仕活動のありかた	39
人間と自然	43
流行の意味	45
わたしの雑記帳	47
奉仕の思想の原点は何か	53
地区大会について	57

日向ロータリークラブの印象……………	61
ふれあい(その一)―そこから始まる……………	63
ふれあい(その二)―マークアップの収穫……………	65
例会出席の意義……………	67
長瀬富郎氏の「ロータリーを考える」を読んで……………	71

ロータリーにおける奉仕の理念と奉仕の方法

ロータリーは宗教団体ではないが、世直し運動、つまり世の中をよくすることを目的とする団体の一つである。根本の思想は、社会生活における人間の幸福は他人への思いやりと助け合いにあるという信念に発している。どういう奉仕かというと、それは一般的奉仕である。それをいかなる方法で行うかというと、ロータリアン各自が一人一人個人で自分の職業を遂行する場面で行うのである。自分の仕事にたくさんの関係者がある。従業員や顧客や株主、それから一般公衆などいろいろある。仕事をする上で自分だけ得をするのでなく、これらの関係者も公平に幸福であるように思いやって仕事をしなさいというのである。ライオンズクラブは同じく奉仕団体であるが、これはロータリーよりも金や物を多く醸出し合って奉仕の事業をさかんにやっているが、ロータリーのやり方はそんなやり方ではない。お金はなるべく使わない。ライオンズクラブなどの方法と区別するために、ロータリーではロータリーの行う一般的奉仕のことを、ことさらに職業奉仕〔Vocational

Service)と呼ぶようになった。今日ではそれが便宜的にいくつかの奉仕部門に分れている。職業奉仕、国際奉仕、社会奉仕を三大奉仕部門と呼んでいる。これらはすべて自分が仕事をしている場で、またはその場を通じて行うもので、本来すべてを職業奉仕と称すべきものなのである。他の奉仕は職業奉仕の展開というか進展にすぎないのである。そのように理解していただきたい。

以上の外部に対する奉仕の概念と対照的にロータリークラブにはクラブ奉仕の概念がある。そしてロータリーの奉仕の原点はクラブ奉仕であるといわれる。クラブ奉仕とは会員一人一人が自分のクラブの管理、運営、実践の一部を分担することである。そのことは例会に出席することである。出席してクラブ活動に参加することである。今まで述べたところをここで整理して最も簡単に表現すると、「地域社会の代表的職業人が、例会においてその人格を磨き、その功徳を地域社会全般に及ぼそうとするのである」。だからロータリーの奉仕は団体ではなく、会員個人個人が例会に出て、そして自分の仕事場、生活の場、ひいては社会の場に帰って、人の為をも考えた、人の為になるような仕事の仕方をするということにつきる。これがロータリーである。これだけの簡単なことなのである。

従ってロータリーにおいては、例会に出席することが根本的に最も大切なことなのである。決してむづかしいことではないのである。一週間に一回、それもたった一時間、昼食時間を割愛していただければ足りるのである。いくら忙しくてもこれくらい暇は見つけられるのではないだろうか。若しどうしても差支えて欠席した場合は、当日を含めて前後七日間以内に他のロータリークラブに訪問者（ビジター）として出席すれば、その欠席が補填されて出席になる。こうすることをメイクアップと呼んでいる。〃ロータリーの友〃という雑誌の中に毎号附録として全国のクラブの例会日と時間の一覧表がついている。これを切り取って財布の中に入れておくとどこへ出張してもメイクアップができます。外国へゆくときも世界のロータリークラブ案内書で予めスケジュールを組んでおけばメイクアップができます。私は昭和四〇年春に三五日間欧州旅行をしたが、毎週完全にメイクアップをしてアッテンダンスカードをもらい、これを航空便でいちいち日本に送った。ロータリーのよい勉強にもなった。よそのなりふりを見るといろいろ参考になることが多い。だから、前に述べた、例会に出席して切磋琢磨して、おたがい影響し合うという場所は、自分のクラブだけでなく、近隣はもちろん、他県や全国、全世界にひろがっている。

新入会員の方も、どうかロータリーをむづかしいものとか、窮屈なものと考えずに、気楽に永い目でせつせと例会に出席してください。出席しただけ、次第次第にロータリーが分かり、そして自然に奉仕ができてきます。例会時間ぎりぎりのかけこみでなく、少くとも一五分ぐらい前までには会場に来て、誰彼声をかけ合っって何でも話をしてください。旧会員も新会員も、できる限り姿を認

め合ったら、必ず声をかけ合い会釈をし合うようにしましょう。今、私の会社では、当面の各現場の合言葉が「あいさつは大きな声ではっきりと」となっています。どの現場の掲示板にも、みんなが目につくように、この言葉が書いてあります。皆さんの職場ではいかがでしょう。あいさつはよく行われていますか。上役に対しても部下に向っても、同僚同志でも、おはよう、おつかれさん、ごくろうさんなど、はっきり声を出していい合うよう戒しめています。ともすれば、この人間社会で、円滑に気持よく生き合ってゆくための、最少限度の礼儀の形である、会ったときの会釈が、現代ではすり切れてしまいがちです。好意を持ち合っていることのこの簡単な表現から奉仕が始まるといってもよいと思います。

このようにしてロータリーは、奉仕の輪を次第に大きくひろげてゆき、国際間の理解をも深め、世界の平和にも寄与しようという遠大な理想をも目指していることを附言して話を終ります。

(49・4・10)

ロータリーの発生と奉仕の理念について

(一) ロータリーの発生

ロータリークラブは、一九〇五年(明治三八年)二月二三日にシカゴの青年弁護士ボールハリスによって創られた。

創立当初、ボールの目的としたところは二つあった。

一つは当時の都市生活から生ずる企業経営者や職業人の孤独感から逃れようとしたことであり、もう一つは当時の西欧社会に横たわっていた商人を中心とする企業経営者(Business man)と医者、弁護士、学者などの専門職業人(Professional man)との間の溝を埋めることであった。

これは今日のロータリー哲学の重要な柱となっている「一職種一会員制」と「職業間の相異の否定」の原点となる発想であった。

さて、一番最初にロータリアンたちが行ったことは、第一は例会出席の励行、第二に会員の相

互扶助であった。「連続四回例会に欠席した者は会員資格を自動的に消滅すべきものとする。」という重要な議決は最も初期の頃の例会でなされている。

当初は他人や外に向って奉仕する考えはなく、会員相互が日常物資供給や相互取引を義務づけていたが、やがてロータリークラブの相互扶助から生れる親睦の精神をもって社会一般に役立てるべきであるという奉仕の概念に到達するのである。

この思想を強くロータリーに導入したのは一九〇八年にシカゴに現われたミシガン学派の青年フレデリック・シェルドンであった。

当時の利潤追求本位の正統派経営学に対して、ミシガン学派は、商売とは一つの取引を通じて両当事者が商品と代金の交換を行なうだけでなく、両当事者の双方に精神的満足の生まれるものでなければならぬと説いた。

人間は金なくして生きて行けない。それは人間がその知性と労働と物資を売って得た対価であり、それにより人間の生計が支えられる。そして生計を支えるのは人間の幸福という各自の終局の目的を達成せんがためである。このように考えていくと、自分が一箇の取引から得た金銭の中には、それを中心に無限にわたって全世界に拡がる人間の幸福追求という精神的要素が含まれており、ということが判明した。このようにして自己一個の幸せは他の全人類の幸せと無関係でない

という自覚が生れ、この自覚の枠組みの中で経営を行って始めて経営は本当の金銭を得、真の儲けを得、万人の幸福という紐帯によって結びつける経営を行なうことができると考えたのである。かくして有名な“*He profits most who serves best*”（奉仕に徹すれば最大の利益あり）と標語が生れ一九一一年の大会で議決され、さらに一九五〇年の大会で追認された。

(二) 奉仕の理念

ロータリーは奉仕を目的とするものであるが、その方法は「地域社会の代表的職業人が例会においてその人格を磨き、その功徳を地域社会万般に及ぼそうとすることを目的とする。」と表現されている。

ライオンズクラブは金銭的奉仕を積極的に行う社会奉仕クラブである。ロータリークラブの奉仕は一般的奉仕であるが、ライオンズの奉仕と理念的に異なるので、これと区別するために、その後ロータリーはその目的とする一般的奉仕のことを職業奉仕 (Vocational service) と呼ぶようになった。

奉仕の原点はクラブ奉仕である。クラブ奉仕とは、一人一人が自分のクラブの管理、運営、実践の一部を分担することである。そのことは例会に出席し、クラブ活動に参加することである。こう考えてくると、クラブ奉仕の原点、すなわち奉仕の原点が出席にあるということが理解で

きる。そしてまたそれが親睦にあるということもわかってくる。出席↓親睦(同志的向上を目指した)↓奉仕の心↓奉仕の実践(クラブでなく会社、社会、家庭で各個人が)というロータリーの理想が実現され、世の中を良くする大きな力となり得るのである。だから、職業奉仕はクラブ奉仕と同一体の別の側面であることがわかる。クラブ奉仕の裏付のない職業奉仕はロータリーの職業奉仕ではない。ロータリーとは思想改良運動であるということが出来る。自分という個人を改善して職場やその他社会全般に影響を及ぼそうとするのである。社会奉仕と国際奉仕もすべてクラブ奉仕と職業奉仕を結んだ延長線上にあるものにすぎないので、後に便宜技術的に区分を行ったものである。本来この二つの分野も職業奉仕の概念の中に包含されていることは自ら明らかであろう。

社会奉仕の基本原則は一九二三年セントルイス大会決議第三四号に厳然と示されている。

- (1) ロータリーは例会その他を通じてロータリアン個人々の教育を行い、その人格向上を通じて社会に奉仕するものであるから、あくまで個人的奉仕が中心であること。
- (2) ロータリークラブが団体的社会奉仕を行う場合、それは社会的問題の救済という側面よりもあくまでその行動を通じて各ロータリアンの教育に資するものと考えべきこと。
- (3) ロータリークラブが団体的社会奉仕を行なおうとするに当っては、

- (イ) 先ず社会の実状と問題点を事前調査すること。
- (ロ) 社会問題が発見されてもクラブ財源に対する不当な圧迫とならないことを確めること。
- (ハ) 当該問題进行处理すべき専門機関があれば、これは側面から援助し、自ら救済活動を行ってはならないこと。

(ニ) 専門事業団体が存在せず、(ロ)にも抵触しない場合にのみ、団体的社会奉仕を行ってもよい。国際奉仕は一九一四年第一次大戦のとき出征軍人や傷病兵を慰問するという仕事があったことが始まりで、戦禍に対する反省は平和時における国際理解助成が必要であることを目覚めさせ、そのための手段の一つとしてロータリー財団が設立されたりして今日に及んでいるのである。

以上述べたところによって、ロータリーの本体は何であるか。またロータリーの奉仕の本質は何であるかをよく理解していただきたいと思う。

(49・2・20)

引用文献 「ロータリーに関する十四の断章」松井幸雄氏

「ロータリー生史」小堀憲助氏

ロータリーの集会について

フォーラム（討論会）

裁判・政治集会が催された古代ローマの広場のことをフォーラムといった。今日では公開討論会の意味に用いられるようになった。ロータリーのフォーラムには次の二つがある。

- 一、クラブ・フォーラム（クラブ討論会）
- 二、インターシティ・ゼネラル・フォーラム（都市連合一般討論会）

アッセンブリー（協議会）

フォーラムとアッセンブリーとはどこが異なるか？ フォーラムはロータリーの一般的な性格や活動的なプログラムの研究などについて討論を行い、参加者が自分たちの意見を出し合う会合であってお互いが刺戟し合って進歩するためのものといわれている。アッセンブリーの方は相談をする会合であって、相談して方針などを決めるといふ機能を持つものである。アッセンブリーには次の

三つがある。

一、クラブアッセンブリー（クラブ協議会）

二、ディストリクトアッセンブリー（地区協議会）

三、インターナショナルアッセンブリー（国際協議会）

クラブアッセンブリーは、クラブの運営および活動について協議するために、クラブの理事・役員および各委員長が集まる会合で、少くとも年六回開催することが望ましいとされている。すなわち、年度始め、ガバナー公式訪問の少くとも二週間前、ガバナー公式訪問のとき、地区大会のあと、および年度後半の始めがそれである（前三者は必ず行わねばならない）

地区協議会は、次年度の地区運営にそなえて、地区内各クラブの次年度の責任者を中心に開催される協議会で講習会のような性質をもっている。これはガバナーが主催し、次期ガバナーが協力する。協議会への出席義務者は、毎年、R I 理事会が指定するが、各クラブの会長、幹事、四大奉仕部門担当の理事のほかその他の二、三の部門の委員長が指定される。

国際協議会は地区協議会の上の段階の会合で、次年度の地区ガバナーをR I 本部が集めて次年度方針について講習を行い親睦をはかるものである。

クラブアニュアルミーティング（クラブ年次総会）

これについては、宮崎北ロータリークラブ細則第四条を参照することとしたい。

第四条 集会

第一節 年次総会……本クラブの年次総会は毎年三月第二例会日に開催し、その際次年度の理事を選挙する。

第二節 本クラブの例会は、毎週水曜日一二時三〇分に開催する。例会の変更又は休会に関する通知は、適当な時期にクラブの全会員に発せられなければならない。

第三節 会員総数の三分の一が、年次総会及び例会において定足数を構成する。

第四節 定時理事会は、毎週第一例会日に開催する。臨時理事会は、何時たりとも必要と認めるとき、又は理事二名の要求のあるとき、これにつき適当な期間において通知し、会長これを招集する。

第五節 理事総員の過半数が理事会の定足数を構成する。

（註）総会は年一回で、次年度理事の選挙のみを行なうものであり、その他のあらゆる取り決めは例会で行えばよいのである。

インターシティ・ゼネラル・フォーラムについて

都市連合一般討論会は当県の場合、県北分区と県南分区に二分して行われる。今回は県北分区は宮崎北クラブがホストクラブとなって行われる。参加クラブは宮崎・宮崎西・宮崎北・延岡・延岡東・日向の六クラブである。

従来は県下の全クラブが連合で行われたり、鹿児島県と宮崎県の全クラブが合同して行われたこともある。手続要覧（P一五〇～一五五ロータリーの計画）によると司会は国際ロータリー会長によって選ばれた有資格指導者がするのが原則であるが、地区ガバナーは、その地区内、または近隣地区からリーダーを選んでもよいことになっている。一般にその地区のガバナーまたは、分区代理がゼネラルフォーラムリーダーになり、テーマ毎のリーダーは地区内の会員から選ばれている。

フォーラムはその性質上、できるかぎり多くの会員が発言することが望ましい。その意味で前回（四八・二・一八）日向市で行われた県北分区のフォーラムはテーマの討論の形式が今までにない方法で行われた。参加者が一〇のテーブルに分れて全員が一人残らず自分の意見を述べたことは秀れたプログラムであったと思う。

要はロータリーの運営や奉仕活動をいかにして進歩させるかということが基本テーマであり、それに対して参加者ができるかぎり多く意見を述べておたがい刺戟し合うことがフォーラムの目的である。クラブフォーラムを少し拡大して行うものと考えればよいわけで決してむづかしい肩の凝る集会ではないのである。

ディストリクトコンフェレンス（地区大会）

地区ならびに国際ロータリーに関係ある諸問題について討議するために毎年開かれる大会で、地区ガバナーが計画し主催する。これは地区協議会と異なり、各クラブから多数参加、とりわけ新入会員や家族の参加が望まれている。

（48・12・5）

ロータリーとは

妥協的な空気が大切である

一九三四年に神戸クラブの西正勉氏が次のように言っていて居られる。「宗教においても、また思想においても真剣で熱心であればあるほど、その団体は分裂の危機を持つものである。ロータリーがその半面において、妥協的な空気とあいまいさがあることはその維持発展のうえにきわめて必要なことである」。つまりロータリークラブにおいては、対立して派が分かれるようになるまで物事を突き詰めない方がよいと思う。事を成さんと性急に焦ったりしないで辛棒がよく漸進的にクラブを発展させるよう心がけるべきだと思う。ロータリーの場では、議論しても相手をやっつけるような言い方は慎んだ方がよいだろう。

目立たないところに妙味がある

日本におけるロータリーの創始者である米山梅吉はこう言った。「ロータリアンの不平に三種あ

る。その一つは、倦むること、いつこうつまらぬと言って出席しない。その二は、ロータリーの活動が足りない、もっと社会的にも政治的にも口を出せと力こぶを入れる人で、このため国際ロータリーでは国際連盟にオブザーバーを出すことになった。その三は、ロータリーはどこへ行くかと悲観する人であるが、ロータリーは見えないところに仕事があり、目立たないところに妙味がある。さて私自身、目立たないようにしているが、これでも私はロータリーであると自分で思っている。

着物の裏をととのえる仕事である

一九三三年四月二九日の第七〇区年次大会において、井坂ガバナは「もともとロータリーは外来の思想ではなく、人間本来もっている善い種が芽生えたもので、これを一つの形式にとりまめて人間活動の指針としたのはアメリカの手柄である。」「ロータリーは着物の裏はととのえて着心地良くするような仕事をやっている。身体に密着するのは表でなく着物の裏であり、ロータリーも生活に密着して住み良い世の中をつくろうとしている。」と述べた。ロータリアンはこんなふうと考えてロータリーを作りあげてきた。視野のひろい寛容な団結の輪を拡大しながら、世直しの推進力となって社会の中で生活行動をしているところに貴重な力と意義が存在するのだと思う。数えあ

げるような派手なことをいくつもやったというのではなく、ロータリーは目立たぬように着々と前進し発展をしていることを確信している。

(48・8・1)

職業奉仕を理解する

(クラブフォーラム)

(その一)

一、週間について (P一〜P三) ……

最初に神守源一郎さんの「ロータリーでいう職業奉仕」という本の解説を私がいたしましたから、質疑応答に移りたいと存じます。まず冒頭に、日常やることが職業奉仕で、その週間だけ職業奉仕をやるなんてバカなことである。職業奉仕週間というのは職業奉仕理解週間でなければならぬ、といっておられます。

二、職業奉仕の意味 (P三〜P四) ……

自分の職業奉仕というのではなく職業を通じて社会に奉仕するのがロータリーの職業奉仕なのです。人間はSelf(自分のことしか考えない)の時代から Fellowship(他人と協調する)の時代を経て Service(積極的に他人に奉仕する)時代に入るものといわれる。(P五)ロータリークラブには

いると、個人としては奉仕の大切なことを感じとり、自分をロータリー精神で律するようになり、更に他人に対して相手の身になって行動しなくてはならぬと感じとるようになる。また、職業上ではロータリー精神で経営し、社会に迷惑をかけないようにする。進んで社会のお役に立つように考えるようになる。(例えば製品を作るなら、使う人の身になって作り、世の中のプラスになる製品を開発する。)

ロータリアンが職業奉仕を旨としなければならぬ根拠はロータリークラブ定款第三条の綱領中、第二と第三に書いてある。

第二、職業上の高い道德的基準、総ての有用な職業の価値あることの認識、そして社会に奉仕する好機としての各自の業務を各ロータリアンにより權威あらしめること。

第三、各ロータリアンはその個人生活、職業生活、社会生活の別なく、常にこれに「奉仕の理想」を適用すること(P六)これをやさしく翻訳するとロータリーの職業奉仕というのは「自分の職業に対して誇りと愛情を持って、その経営に最大級の努力を払うが、その方針は、単なる金儲けばかりを目的とするのではなく、所謂ロータリー精神というか、奉仕の精神というか、或いはフォアウェイテストの精神というようなものを汲み入れて、企業の道德的水準を高め、その職業を通じて社会に貢献する、尚欲をいえば、更にこの信条を同業或いはその他の友人達にも勧め誘うことである。

ある。

三、職業に誇りを持つ (P六) Vocational Service

天職、(神によって授けられた職業の意味)という言葉がある。宗教改革者カルヴィンは「われわれが神によって救われるというのは、われわれが、われわれの職業に本当に全力を尽すということによってのみである」といった。(P八)東京西北クラブ谷沢さんは新入会のあいさつで、最後に「要するに日本において、カバンの歴史は谷沢家の歴史です」といいきった。(P九)佐伯の二平平合板の社長村上さんは輸出するときに「私はただいい合板を作りたい。もちろん私は利益も得たい。しかしたとえ利益がなくとも、ただいい合板を作りたい」と書いた紙片を一枚荷物に入れておくそうである。

会員の発言要旨

・(問)すべての有用な職業ということとは接客業やその他であてはまらないものもありはしないか。

・(答)ロータリアンは会員候補者を選ぶときに有用な職業を持っている立派な人を選択する特権

を持っていると解すべきであろう。

・(問) 商社の買溜等が問題になっているがそんなことをいっていたら商売は成り立たないのではないか。

・(答) 近代資本主義の世の中になって金儲けのためなら何をやってもいいという考えが通っていたしそれが正義でもあったが、今はそうは行かなくなった。社会思想が大きく変りつつある。社会のためになるように仕事をするというロータリーの精神は一步一步つよく押し進めることがロータリアンの責務であると思う。

(48・8・29)

職業奉仕を理解する(その二)

それでは先週に続きまして「職業奉仕を理解する」という問題に移りたいと思います。最初にこの前ご紹介申し上げました神守源一郎さんの「ロータリーでいう職業奉仕」いう本の紹介の続きを申し上げます。

この前は神守さんの本の九ページまでのことを申しましたが、これを全部ご報告すると時間がございませんので、かいつまんで続きを申し上げます。

一二ページのところ、職業観というものが現代では変わってきたということが書いてございませう。この前もお話し申し上げましたように、昔は職業に対して宗教的な使命感というようなものがありました、おそれかしこんで一生懸命職業奉仕をした。それが近代資本主義の世界になってからは、大量生産とか大量消費の時代にはいって、何がなんでも金をもうけるのが目当てになって、金もうけのためならなんでもやっていいんだというような世の中に変った。それが又、正義でもあつ

たというふうに変って行ったのですが、それが今日ではそうはいかなくなつた。社会思想というか経済感覚というか、それが急角度に変わつて、やはり社会のためになる仕事の仕方をしてないとやつてゆけない時代になつたというふうに書いてございます。

それから公害問題などについて一五ページに書いてございます。企業の社会的責任の明確化。善意、無過失ではすまない時代になつたと書いてございます。ついで三五ページでは、社内教育の必要ということを強調しておられます。

三七ページに本の紹介がございます。これは是非幹事さんでもお世話になりまして、みんなで読んだらよいのではないかと思います。私も中味はわかりませんが、加藤尚文という人の「職業と人生への問い」という本が紹介されております。この中で、労働者が求めているのは生活と労働、人生の三者の統合であると著者は言っている。職業の三要素である生活の維持、個性発揮の自由、連帯の実現―これは仕事に参画する、別のことばで言うとならぬこと―この三つの統合としての職業というものを皆さんに提言しているというふうで紹介されておりますので、非常に興味がございます。

つぎに三九ページに「企業の道徳的水準を高めること」について例があげてあります。まず東京西北RCの望月継治さんという人が神田精養軒というパン屋を経営しておられます。この方は、パ

ンの製造に当たって防腐剤、安定剤、着色剤、増量剤などを全然使わない良心的な経営をされているという例があげてあります。又同業者との共存関係ということの例が四ページにふれてあります。これは「キッコーマン」という醤油会社のことですが、チクロを全然使わなかったということ。さらに、他の会社はチクロを使っているのに、自分の会社だけが使っていないのだという広告をあえてしなかつたということが特にほめて取り上げてあります。こうした場合、商人の間にはよく自分だけがいい子になろうとする風潮が強いのですが、キッコーマンはあくまで同業者間の公平を保とうとしたことがほめられております。さらに外国への色々な物の売込みに関して、最近の日本人の無神経さは大いに反省しなければならぬと書いてございます。

それから四五ページにコカ・コーラのことが書いてございます。この社長はポール・オースチンという人ですが「あなたの会社は成功していますね」という問に対して「ウチの社員は、どこの国に行つてもその国のよき市民となつて、清涼飲料水としての社会責任をよく果たし、それを通じてその国の社会に貢献するよう、よく訓練してあるからです」と答えています。四六ページには岩切章太郎さんの紹介がのつております。仕事を通しての奉仕は、仏教の慈悲からでているということが詳しくでておりますので、よくお読み下さつたらよいと思います。

ロータリー情報

出席奨励と早退防止について

特に卓話のある例会（メイクアップ先RCにおいても）では早退をしない運動の提唱。

宮崎の三クラブでお互いにメイクアップのとき午後一時頃早退することが悪習のようになって来ている。

1. 出席をしよう。そして欠席したときは必ずメイクアップをしよう。

自分のクラブであれ、メイクアップ先のクラブであれ、ロータリーのメリットはその大部分が例会の中にある。

知り合いをひろめることは個人的にも事業上からも貴重である。短時間にいっぺんに各界のベテランたちに合って直接情報を聞いたり、連絡をし合ったり、利益は無限に用意されている。

米山梅吉氏は、「ロータリーの例会は人生の道場である」といわれた。つまり人間修業の理想的な場所の一つといえよう。

四月二四日、小田バスターガバナーは大分RCの例会で卓話をされ、次のようにいわれた。

「仕事が忙しいから欠席する」という会員がおるが、今のご時世に仕事と休憩、昼食の時間にケジメをはっきりつけないというのはどんなものであろうか。

昼食時間はキチンととって心身を休めるのが健康にもよろしく、就業規則にも大抵そのように入らうたっている。

自分にも相手にもそのケジメをはっきりさせる意味において例会出席は日常生活上極めて有意義であると考ええる。毎週の例会時間が相手にもよく理解されれば、出席によって仕事に支障を来すことは無い筈だし、且又現代的であらうと思う。」

◎メイクアップの意義

単に欠席補填に止ることなく、他クラブの例会に出席することは非常によい経験になるし、そこで普段接することのない各界の有識者と自由に話しが出来、それだけ見聞がひろまり、同時に自分のクラブの現状についてもまたより深い認識と反省が可能となる。

◎出席をよくするには

- ① 例会をできるだけ気楽で楽しいものにする。
少し堅苦しくなっていないか見直す。

それからためになる例会にする。(プログラムなど)

② 意欲の問題も大切である。

ロータリークラブに入会した以上は勇氣を持って、腹を決めて、積極的にロータリーの中にはいり込み、興味を持つ。

③ 古い会員や、メイクアップ先のクラブの会員にこちらから思い切って声をかけること、向

うから声をかけてもらいたいではためである。

2. 早退をぜひ止めよう

自分のクラブでも、メイクアップ先のクラブでも、一時三十分まで居ること。特にメイクアップ先でも早退をしないこと。そこで卓話がある場合は絶対早退しないことを提唱したい。

宮崎の三つのクラブでお互いメイクアップしたとき、一時頃早退する悪習が出来上ってしまった。これはぜひ改めたい。皆さんのご協力を切にお願いしたい。卓話の始まるとき席を立つことは卓話者に対して、きわめて失礼である。

また、自分の欠席補填の都合のみで、相手クラブの迷惑や卓話者へ配慮を失することは甚だ遺憾である。

定款第八条第五節の出席率の六〇％という数字は重大なことであるが、これは真に緊急止むを

得ない時の救済であって、六〇%（三六分）おれば退席してよい権利が生ずるのではない。

次に卓話者に対する礼儀を失していることがもう一つある。三クラブともしばしば見受けられるのでぜひ改めて欲しい。

それは卓話者に正味三〇分の時間を約束して三〇分に相当する談話内容を用意させておきながら、クラブの諸報告等で時間を喰い込み、甚だしいときは二〇分、極端な場合一五分しか卓話時間を与えないことがある。不急の行事や報告はその日は省略して、今後はぜひ卓話者に三〇分の正味時間を与えるよう配慮していただきたい。

私も卓話を何回か依頼されたが、五分短縮されても甚だ不快に感ずることがある。幹事とプログラム委員長は席上緊密な連絡を取り合って正味三〇分を確保していただきたい。

さて、日本人は国民性が短気でコセコセしすぎて早めしが美德とされていた時代もあり、食事を楽しむ風習に乏しい。昔は卓話者に対する礼儀はきびしかったが、この頃はボケて乱れてしまっている。

しかし、真に止むを得ず早退の必要な場合もあり得る。そのときは予め、S・A・A、幹事、会長、いづれかの了解を取り付けておく習慣をつけてほしいと思う。

早退防止のためのいろいろの意見や提案が今度のロータリーの友五月号に掲載されている。

例えば食事前に卓話を行う方法とか、例会時間を一二時から一時までの一時間に改める方法が提案されている。しかし要は心掛けの問題であると思う。

どうか、今後出席励行、メーカーアップ励行、自クラブでも他クラブでも早退をしない運動を皆さんと共に心をしっかりと併せて推進し実践したい。

まず、北クラブから模範を示すことにしようではないか。

早退防止の問題は、要は早退しないようになればそれでよいのであって、ご紹介したそのためのいくつかの方法の例はご参考に申しあげたのである。

みんなで実効が上るように工夫と努力をしてほしいと思う。

(48・5・30)

今後の奉仕活動のあり方

本年度のロータリーの相言葉は「Let's take a new look」で、去る二月一八日日向市で開催されたインターステージネラルフォーラム（近隣都市RC連合討論会）もこの「今までの行き方を見直そう」ということを考慮に入れて計画され討論が行われました。

先づ何を見直したかという点、討論会などに従来は発言者が少数の会員に限られていたのを全員に発言させる工夫がなされました。参加者を一人ぐらいつつの一〇組のグループに分けてバズセッションの形で二つのテーマについて全員に発言をさせました。テーブルマスター（当クラブからは福井辰夫会員、黒木勝会員が担当）がとりまとめ役をつとめ最後の全体会で一〇人のテーブルマスターが報告をいたしました。

次に何を見直したかという点、ロータリーの奉仕活動のあり方をたいへん積極的な態度で見直したのであります。それが討論のテーマになりました。第一のテーマは「地域社会に密着した奉仕活

動を促すには」であり、第二のテーマは「奉仕活動に全員を参加せしめるには」でありました。

さて今年の一月号の「ロータリーの友」に「ロータリーの友」創刊二〇周年記念論文として第一席に当選した、甲府R.Cの小林茂会員の「五年先のロータリー」という論文が掲載されました。その要旨のみを簡単に紹介すると、「五年先のロータリーは、もっと活発な奉仕活動を行って、日本人の心の中に、また社会活動のなかにロータリー精神が根づくようにしなくてはならない。ロータリーはともするとロータリアンの自己満足だけに終り、閉鎖的な社交団体に陥り、次第にマンネリ化し社会的存在意義が失われ、この多様化し目まぐるしい世の中で置き去りにされ、衰退していつてしまう。ロータリーが魅力あり、また社会的存在価値のある奉仕団体にするにはどうしたらよいか」とまえおきして次の五つの提案をしています。①奉仕活動を全国民運動へ。②奉仕活動を政治に反映させる。③同業ロータリアンで話し合いを。④婦人部会と青少年部会を作る。⑤普及宣伝活動を積極的に行う。

ここで再び話しを日向市におけるインターシティゼネラルフォーラムに戻して、私がテーブルマスターとして全体会で報告した内容をご参考に申しあげたいと思います。これはテーブルのみなさんご意見を総合した上で私の考えを加えて整理を行って報告したものであります。

先づ前提として一つの方向を定めました。それはマンネリ化とか自己満足から脱して奉仕活動を

市民社会の場で拡大する市民や県民や国民の中にはいって一緒に動員する—そういうやり方にかえてゆく、自クラブだけでなく、市内のクラブ、県内のクラブ、全国のクラブと一緒に同じ奉仕のテーマでやってゆくということであります。このことを頭において県北六クラブのやっていることを特徴別に分類してみました。地域社会との密着の仕方と会員の動員の仕方の二つの観点から次の六つに分けました。

(一) 年歴の厚みのあるもの……職業奉仕賞(一〇〇年) (宮崎)、青い鳥賞(一〇〇年) (延岡)へき地診療(七年) (日向)

(二) 資金充実策を樹てたもの……社会奉仕基金制度(宮崎西) 三百万円の基金を会員の醸出でつく

る。

(三) 他団体と提携協力したもの……市青年団連絡協議会と協同奉仕(宮崎西)

(四) 全員が一つの奉仕活動に参加しているもの……ボイススカウト育成会(宮崎北)

(五) 地域社会の人を大きく動員したもの……子供ソフトボール大会(延岡東) (小・中校・部落一三〇チーム)

(六) 数クラブ合同で行ったもの……チャリティバザー(宮崎市三R.C)

その他次のような意見が出されました。

- ・ 地域社会のニードの選択とそのタイミングが重要である。
 - ・ 行政面に提言やアドバイスを行う。
 - ・ 青少年問題は特に重要である。若い層にロータリーのファンを広くつくるべきである。これなくしてはロータリーは枯れてしまう。
 - ・ 市民大衆との明るい場での接触もよいではないか。すなわち保健レクリエーションへの参加奨励や教養文化向上に資する奉仕なども行ったらよい。(美術・音楽・演劇等)
 - ・ 他クラブ、他団体との協力もしたらよい。
 - ・ ロータリーは曲り角に來ている。原点にかえれ。
 - ・ チャリティバザーも会員が出品して会員が買うのでは地域密着ではない。
 - ・ 市の木、県の木の増植には大々的に協力してはどうか。
- 最後、ロータリーの社会奉仕の基本的な方針や理論は手続要覧の社会奉仕の項を読んでいただく
と詳しく書かれてあるので一度読まれた方も再読三読をお願い申しあげます。(48・2・28)

人間と自然

最近、ある新聞紙上で「人間は自然の支配者であり、草木虫魚のたぐいは人間に奉仕するためにあると考えたことは神を冒瀆するものである。」というきびしい指摘をしている人があった。まさにそのとおりであろう。今こそ私達はその仕返しを受けはじめている。清らかな母なる自然のふところにいだかれてこそ、その子どもとして人間は生きてこられたのである。大きい自然―例えば瀬戸内海全体が魚貝の住むのに適しないように汚染がはじまりかけていると聞いて慄然とした。私達の眼の前の大淀川の水の色を見ていてほんとうに不安で不安でしかたがない。行政家や政治家だけが公害を除去したり、予防したりするのではない。私達一人一人が市民として積極的な関心を持ち、世論をつくりあげてもっと活発に政治や行政を動かす機能を持つ必要があると思う。

当面もう一つこれからの国民の重要な問題として、福祉の増進についてもおなじように真剣に取り組むべきであろう。戦後福祉があまり進まなかった原因は、国民が利他的で自己本位であったか

らだと思う。他人の問題、他人の福祉が裏を返せばすなわち自分の福祉の問題なのである。

ロータリークラブでも一つ一つのクラブの力は微々たるものであるが、もう一步進んで横の連携をよくして国民ぜんたいにとって重要なその時々々のニードを取りあげて奉仕活動を力強くおし進めるべきであろう。

(48・2・21)

流行の意味

花をつくってみると、人間は、同じものには飽きることがよくわかる。見事な色や形であってもながく見馴れると、きわめてちんぷとなる。

流行とは、目あたらしいということにはほかならない。人は絶えず変えずにはいられないのである。変化は生きるための欠くべからざる刺戟となる。流行をばかにしてはならない。生活意欲への必要な、フレッシュな糧と受けとることが素直な生き方なのかもしれない。

(48・1・10)

私の雑記帳

一昨年の元日から私は毛筆で半紙四〇〇枚ぐらい綴じたものに日記をつけている。そのほかに大
学ノートの雑記帳をつけている。一昨日卓話の依頼があり余り突然でほんとに困った。そこで雑記
帳を繰ってみて、断片的につまらぬ話題を拾い集める仕儀となった。

年頭諸感というものは正月を過ぎ過ぎて、しみじみと心にしみ入るか湧いてくるものをいうの
である。私の雑記帳には次の二つのことが並べて書いてある。

第一は、「武士は食わねど高揚子」というのは立派な精神である。それがこの新春にはじめて実
感としてわかった。昔の日本人はきびしいモラルを持っていたと思う。今は長いものに巻かれるこ
とを男は何とも思わなくなっている。(これは年を取った私の感想)

第二は、知多市の学生、小池稔氏二十一才の意見「……現代は一面全く解放的ではあるが、何
か名状しがたい抑圧感がある……」「……自分自身で創造しかちとってゆくものが欲しい……」若者た

ちは体制に強引に組み敷かれる感じがするのである。それをどうやって導けばよいのか。

次に社会福祉の問題について。恍惚の人の著者有吉佐和子さんが中央教育審議会にいいことを提案している。社会奉仕活動を学校の社会科の実習にとり入れてはどうか。単なる見学でなく、老人ホームや身障者施設にでかけて行って草むしりやせんたくの奉仕をさせる」というのである。身障児を持つ作家の水上勉氏が拝啓総理大臣様という公開状を書いたのは今も記憶にあたらしい。日本の戦後政治において福祉がおくれている。身障児、戦傷戦病、老人等は国がもっと早く完全に面倒をみなければならなかった。経済天国となった日本の政治の順序がまちがっている。次にここで本の紹介をしたい。まづ面白い小説を一つ。佐藤愛子著「赤鼻のキリスト」（津軽風流譚）、次に郷土の本二つ。鈴木健一郎著「日向の伝説」、日高重孝著「日向神話と伝説」二つとも宮崎の人にとっては貴重な本である。この本の中には神様と神社の話が多く出てくる。

さてみなさんは神社というものをどうお考えであろうか。私が住吉という土地に勤めるようになって、私どもの会社では、住吉神社に毎日朔日午前十一時に拝殿に上って参拝をする行事がある。毎月お参りしているうちに何のためにお参りするのだろうかと考えようになった。というのは私は宗教というほどのものを持っていない。しかしむかしから私自身いろいろの神社に参拝して来たし今も続けている。やがて年のせいや、土地柄の影響も受けたのか、私は私なりに納得のゆく考え方

というか気持がすっきりとかたまってきた。そしてその事を私の担当のゴルフ場の主任以上の会議の席上で話しをした。雑記帳をみると昨年二月一日で内容を書き残している頁を見出した。ここにそれをご紹介したい。そんなことは早くからわかっているといわれる方があるかもしれないが、私にとっては大事な一種の悟りを確認したことであってご参考になればさいわいである。

みだしを「住吉神社にまいる―神社とわたしたちの関係」とつけてある。

『住吉神社は小学校の時代から参っているので、親しみがある。神社にはわたしたちの祖先が祀ってある。（いくさの神さまとかそんなことは問題ではない）だから親しい場所なのである。自分のうちの墓もしたい場所である。祖先の心がそこで現在生きているわたしたちの心と通い合う大切な場所である。ここでは迷いやわるい心が洗われる。だからすがすがしい気持になるのである。そのとき、そこで代々の祖先の心がそのまま今の私たちの心に流れて一体となっているのである。自分というものは、ぼつんと今突然自分一代があるのではない。「私はこんなに立派に生きています。こんなに立派に仕事をやっています」と祖先の心の前でいえることは実に大切なことである。世の中のいろいろの物事のなかに激しくまみれて生きているわたしたちはともすると清らかな心を見失い勝ちである。神社の前に無心に立っただけでわたしたちは祖先のりっぱな清い心にふれ、心が通い合い、そのときだけは立派なげがれない心の人間になることができる。神さまにお参りす

る功德は願をかけていろいろのことをきき入れてくださるといふ魔法みたいなことをいうのではない。そのとき清らかな心の人間に立ちかえれるということが功德なのである。だから時々お参りする方がよい。神社にはやはりほんとうはむかし人間であった祖先の一ばんりっぱな心の消えない部分が残っていて、私たちをみているし、わたしたちの心の中で一しょに生き通しているのだから、だからほんとうに有難い場所なのである。神社であれ、お寺であれ、キリストのゆかりの場所であれ、墓であれおなじである。そこはすべて浄域というべきであるしそこに来た者はすべてそのとき善男善女である。そこで俗な心をむきだしにしてはいけない。お金のことや出世のことなど頼むことはこっけいでしかない。その意味では禅寺で座ることなどもよいことであると思う』

ところで、私はさきにご紹介した鈴木健一郎氏の「日向の伝説」をよんではじめて江田神社にお参りしてみる気になった。みなさん参られたことがおありだろうか。実はここが日本神話のなかで一ばん重要なところの一つなのである。ここが日本のおはらいのおおもとの場所、イザナギノミコトが中津瀬でみそぎはらいをされた地点であり、阿波岐原森林公園の一部となっており私どものフェニックスグリーンランドと境を接して風致地域となっている。あの伝説の上ツ瀬が住吉神社であり中ツ瀬が江田神社、下ツ瀬が小戸神社（もと下別府にあった）であり、大淀川口より北方三里までの海が伝説の海である。この一帯は聖域というべきで、宮崎としてはもっと宣伝顕彰してしか

るべき由緒深いところである。お参りして御池まで歩いてみると筑紫の日向の橋の小戸の阿波岐原ではんとうにみそぎをしたのであろうという実感がわいてくるような気がするのである。私も住吉一帯は大好きであるがなくなった郷土出身の作家中村地平もこの地が大好きであった。それで今年阿波岐原森林公園の中に彼の文学碑をたてることになり建設委員会の設立準備委員会が開催され、外山先生や不肖私も参加いたしました。中村地平にゆかりのある中央文壇の方々と県外の関係各界の方々により建設委員会が発足し、一口千円で四百万円を目標に募金を開始しこの二月の彼の命日に起式を行なうことに決定している。どうかお志のある方はお願いを申しあげる節にはよろしくご賛助を賜われたいことである。

(48・1・31)

奉仕の思想の原点は何か

昭和四五年の一月号のロータリーの友に東京RCの松方三郎さんは「奉仕とは何ぞや」と題して、また同じく昭和四五年の九月号のロータリーの友に当時の第三五二区ガバナー桜井文彦さんは「ポールハリスと宮沢賢治」という題で、ロータリーにおける奉仕という思想の原点はどこから出たかということに触れておられる。

二人とも、若いポールハリスが一本立ちになって祖母の膝下を離れ、人生遍歴の旅に出ようというときに、祖母にいわれた言葉をあげておられる。「ポール、貴方は世の人々に大きな借りがありますよ。一人前になった今、一生懸命働いて、誇りをもって生きていきなさい」原文は

You owe much to others, Paul.

Now you are on your own.

Work hard and live honorably.

となつてゐる。松方さんは honor には名譽という意味もあるし、借金を返すという意味もあると書いておられる。親の恩を孝行をして親に返すという思想は東洋に古くからあった。しかし親の恩を自分の親という特定の相手に直接返すというのではなく、広く社会への奉仕によって返そうという考え方は、あるいは西洋的なものかもしれない。と附言しておられる。ともあれ、祖母のこの言葉はポール・ハリスの心につよくつきささり、彼の生涯を左右したわけである。

次に桜井さんの文章の始めの部分に次のようなことが書いてある。詩人の宮沢賢治の「世界ゼンたい幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」という言葉を当時の第三五二地区世界社会奉仕委員長桶口喜四郎さんが英訳して

“There could be no individual happiness as long as there is no happiness in the whole world.”

当時ガバナノミニニーであつた桜井さんに持たせてレックプラシットに行かせた、そして世界各国のロータリアンに配つた。宮沢賢治は、花巻市の裕福な家庭に育つたが、何故自分たちが今このように幸福であるのかを考え、それは『私たち町の者は農村の人々の犠牲において幸福に暮せるのだ』そこで彼は農村の人々の為に何かを返ししなければならぬと思いつめて、盛岡中学から盛岡高等農林学校へ進んだ。それは、農村への奉仕のできるお返しの仕事をしたと考えたからだといわれる。法華教を信奉し、その教えをもって文学作品をかくことを決意、それに命をかけた。農民

の幸福を魂をもって祈つて詩や童話を書いた。そして三七才で生涯を終つた。この後に桜井さんは松方さんと同じようにポール・ハリスの祖母の教訓のことを書いて東洋と西洋で同じ志をいだいた二人のすぐれた人物が居つたことを感慨深く紹介しておられた。りっぱに世の中のお役に立つ価値ある職業―仕事をやりとげてそれでもって借りを返すというわけでロータリーの職業奉仕の出発点として奉仕の理想の考え方の原点は実にごこにあると思う。このことを知って定款の綱領の四項目を読むと、どうしてこんなに書かれたのかということが自ら分つてくるような気がするのである。

二宮尊徳の報徳の精神も全く上記の二人の思想と同様であると思われる。

ややもするとこんな考え方が現代では消されがちであるが消えてしまつてはたいへんである。地球上の人間がみんな幸福になれるようにロータリーを広く分かち合うことこそ私たちの務めでなくてはなるまい。

(47・9・27)

地区大会について

ロータリーの年度間に於ける重要な行事は四つあります。

地区大会、地区協議会、ガバナー公式訪問、及びインターシティゼネラルフォーラムがそれであります。

地区協議会は新年度の始まる前の月、つまり六月中に次期役員を招集して行われる研修の会であります。

これに対して地区大会は原則として地区内全クラブのガバナー公式訪問が終了した時期（一〇～三月）にできるかぎり多数の会員とその家族が参加して行われます。

地区大会の目的は

- ・ 親睦、感激的挨拶及び地区の仕事、並に国際ロータリーに関する問題を全般的に討論することによってロータリーの綱領を推進するにある。

・ 地区大会はR・I理事会から、大会に提案される特殊な事項、或は地区内に発生した問題を審議する。

・ 地区大会は次年度ガバナーを指名する。(理五六―五七より要点拨萃)
クラブ会長必携によると

「地区大会は感激と親交を主題とし、地区内会員および家族のために開催される重要な集会であります。

地区大会には、ほかで得られないロータリーの知識と友愛が盛られています。貴クラブから多数参加があれば、貴下の年度を活発にし、クラブを強化するものであります。」となっている。

昨年は、昭和四六年一月一三日、別府で開かれ小田ガバナーは大会の意義を次のように述べられた。

「この大会はロータリアンが家族同伴で集まって知り合いを広め、親ほくをつちかい、さらに感銘深い諸講演を聞いて精神的啓蒙を図り、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕についての考え方を反省または勉強し、各自の個人生活及び職業奉仕について、悔いのない奉仕が出来るよう、ただそのみを念願して集まった、年に一度の楽しいついででございます。知り合いということは、互いによく理解し合い、尊敬し合い、友情を深めるということです。友情の最も大きな本質の一つは信頼でしょう。

信頼と尊敬によってはぐくまれた相互理解、それによって醸成せられた知性的友情、その友情によって結ばれた「知り合い」をロータリーは求めているのであります。」

また堀永大会委員長は、「年次大会への参加はロータリーのオリジナルを肌を通して直接感じとっていただけの最高の機会だと思えます。」とあいさつの中で大会の効能を述べられた。

わたしもまた、地区大会の良さを一口でいわせてもらおうと、ロータリーが肌で感じられることであり、そしてそれがいろいろ多く感じとれることだと思います。

(47・11・22)

日向ロータリクラブの印象

昭和四〇年前後にメイクアップによく行ったが、今度行って見て知らない人が多くなってびっくりした。会員がすっかり若返っていた。点鐘、ロータリーソングの後、まりと殿様の替唄で肩たたき、首、手、体を曲げたり廻したりの体操を一分間行った。

その後着席直前にテーブルの向い同志、及び隣同志、手の届く範囲の会員が握手を交した。地元
の岩脇中学校の先生の卓話があった。

子供の絵の教育や生活の中に入り込んでの教育の経験談があって面白かった。印象に残っていることは次のとおりである。

〃絵は、言葉にならないものを絵で画いてある。だから言葉の説明はほんとうはいらない。ミレ
ーの晩鐘の絵を子供に見せると、子供はその絵の中にはいり込んでしまう。

あのうつつむいた夕の祈りの姿を見て甘藷どころの財光寺あたりの子供は「今年は澱粉が値下りし

て、からいもがえれ安いかい、おとっさんとおつかさんが心配しちよりゃつとよ」と映るのである。それでいいのだ。”

(47・10・25)

ふれあい (その一)

— そこから始まる —

ロータリーの中にある真実は、人と人とのふれあいである。だから何かふれあいを求めて、私はいつも早目に例会に出かける。(ふれあいを求めようとする積極的な気持が欲しいと思う。) 誰か一人でも二人でもよい。ふれあいの機会が得られるかも知れないからである。

はじめて心がふれあう人に巡りあうかもしれないのである。その意味で例会はきわめて貴重な機会といわねばならない。

(47・8・2)

ふれあい (その二)

—メークアップの収穫—

宮崎ロータリークラブでM支店長とはじめて隣同志で坐った。そしてはじめてしみじみと話しを交した。はじめてふれあいがあった。これは私にとって大きな収穫であった。ああ、これこそロータリーなのだと思った。日頃は、経済関係の会合などで、時たま顔を合わせ、目礼を交わす程度のおつきあいしかしていなかった。私の知らないところで会社の仕事でいろいろお世話になっているにちがいない。もっと早く側に近づいてお話しをしなければいけなかったのだ。

今日二人が話し合ったことは世間話でしかなかったが、ただ二人は社会的に話し合ったというだけではなかった。奉仕の理想を志している二人が話し合ったからこそ心がふれあったのである。

こんな尊い機会がロータリーでは手軽に得られるがその機会を惜しげもなく捨てている人もあるのではないかと思う。

例会出席の意義

ポールハリスは「例会に出席すると童心に帰る」といったそうです。ある人はまた「例会の一時間は神様になる時間」といいます。かってロータリーのターゲットに掲げられた善意(good will)という言葉が当然思ひ出されます。ロータリーが生れた時代にいろいろ世の中の悪い面が出て来たのをポールハリスという中産階級の青年が友人たちと語りつて自分たち職業を通して少しでも世直しをしようと志した時に彼等の心の中に善意の大切さがつよく認識されたのであります。この職業奉仕という考え方による世直しの崇高な哲学が、今日まで絶えることなく変ることなく継承されているロータリーの精神であります。

そこで、この精神に賛成してくださって入会していただいた方が、ロータリーの綱領を読んでくださるとロータリーは例会に出席することであるという義務感というか使命感がはっきりと出てくると思います。定款第三条綱領を読んでみましょう。

第三条 綱 領

ロータリーの綱領は、尊ぶべき職業の基準として奉仕の理想を奨励且つ育成し、特に次の事項を奨励育成するにある。

第一 奉仕の一つの機会として、知り合いを拡めて行くこと。

第二 職業上の高き道徳的基準、総ての有用な職業の価値あることの認識、そして社会に奉仕する好機としての各自の業務を、各ロータリアンにより権威あらしめること。

第三 各ロータリアンは、その個人生活、職業生活、社会生活の別なく、常にこれに「奉仕の理想」を適用すること

第四 「奉仕の理想」に結ばれた職業人の世界的親交によって、国際間の理解と友情と平和を促進すること。

すなわち、第一に書いてある「奉仕の一つの機会として知り合いを拡めて行くこと」は、ロータリー活動の基本が例会出席にあることを明確に示したものにほかなりません。例会は知り合い、親睦を深める貴重な数少ない場であり、心がふれあいそこから奉仕の理想の連帯感と高まりが少しずつ積み重なるようになって出来てゆくのであります。また激しい事業活動の中の息抜きの場であ

り、反省の場でもあります。つまり人間性を一寸の間取りかえす時間でもあります。

その場でわたしたちは

- ・ 奉仕の喜びを知る
- ・ 奉仕のできる自分の職業の社会的つながりと意義を知る
- ・ 事業の繁栄の希望が持てるようになる

この三つのことこそロータリアンの一ばん大きな特典であります。この特典を会員は真に自分のものとしなければなりません。遊びごとや酒の上での親交というのでなく、職業奉仕の使命感と喜びのある人と人との心のふれあい、これこそがロータリーの真実であります。

それが例会出席から生れます。例会の内容やふんいき全体はそんな大切なものを持っていることを知るべきであります。

もう一つロータリークラブには他の団体にはないメイクアップというきわめて便利な特典があります。

おのおの自分の仕事は一ばん大切ですから、自分のクラブ例会をやむをえず欠席する場合があります。来ます。その場合は欠席した日の直前六日またはその直後六日の内に他のロータリークラブの例会に出席すれば欠席を補填することができます。宮崎では宮崎観光ホテルで火曜日に宮崎R・C、こ

のホテルフェニックスで金曜日に宮崎西R・Cの例会が行はれます。その他県内及び全国の例会一覧表がローターリーの友に毎号附録として掲載されています。これをポケットにいつも入れておいて出来る限りメイクアップをしてください。引続き四回例会に欠席したとき、及び六ヶ月間に出席率六〇%を下るときは会員の資格がなくなります。詳細はクラブ定款第八条をお読みください。

(47・8・9)

東京RC長瀬富郎会員の

「ローターリーを考える」を読んで

この文章は私にとってきわめて感銘が深かったので抜萃をさせていただきますと思う。

「砂漠のなかのオアシス、それがローターリーである。

私たちは、このオアシスを大切にしなければならぬ。(中略) 人生は砂漠である。その実感を理解しないとオアシスの尊さはわからない。

砂漠のなかのオアシスとしてローターリーは誕生した」

「ローターリーは文明的に見て生れるべくして生まれたクラブである、ローターリーにはだから確固とした文明批判の精神がある。夏目漱石は慶応三年(一八六七年)に生れ、ポールハリスと米山梅吉は明治元年(一八六八年)一年ちがいに生れている。この三人が共通して心に抱いていたことは二〇世紀への不安であった。」

「一九世紀以来のヨーロッパ機械文明と個人主義の爛熟期において人間性を取り戻すことにつと

めないと人類は危機におちいるという先見であった。」

「知に働けば角が立つ、情に棹させば流される、意地を通せば窮屈だ、とかく人の世は住みにくい、どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れ、画ができる―これが漱石の草枕の書き出しですが、これはとかく人の世は住みにくい、どこへ越しても住みにくいと悟った時、クラブが生れてロータリーができる―と、いいかえることができる。」

非ロータリーアンへの働きかけ

「ロータリーアンは自分が職業奉仕を立派にやっている、というだけでは足りない。自分の属する業界にはたらきかけて、非ロータリアンの同業者も同じように職業奉仕させなければなりません。戦前、村田省蔵さん（元大阪商船社長）は世俗のなかでの戦いに疲れた人が、一週一回集まり、すっ裸になり背中の垢を流し合う。それがロータリーだといわれた。」

ロータリー哲学の根本は「思いやり」

「いわゆるロータリー精神とは何か、それはロータリー大要のはじめに書いてある通り「思いやり」の精神でしょう。ロータリアンにとって真実とは何か？ それは「思いやり」だと思うので

す。「思いやり」こそロータリーにおける最高倫理基準です。」

ロータリーでは職業の倫理化が奉仕活動の焦点

「最初ロータリーの奉仕は、身近な職業奉仕ということであった。最初は単純素朴なものであったが、次第に発展して今日では単に職業を通じて社会に奉仕することだけでなく、職業の倫理化という理念にまで止揚されるに至った。」

第三条綱領には結局のところ「職業」をどう考えるか、どう職業するかが謳われているのです。」

(47・7)

ロータリーにおける奉仕の思想

昭和四十九年六月一日発行

著者 黒 木 勝

発行所 宮崎北ロータリークラブ

宮崎市橋通東一丁目七番四号

第一宮崎ビル内 TEL 0985-4751

印刷所 宮崎印刷株式会社